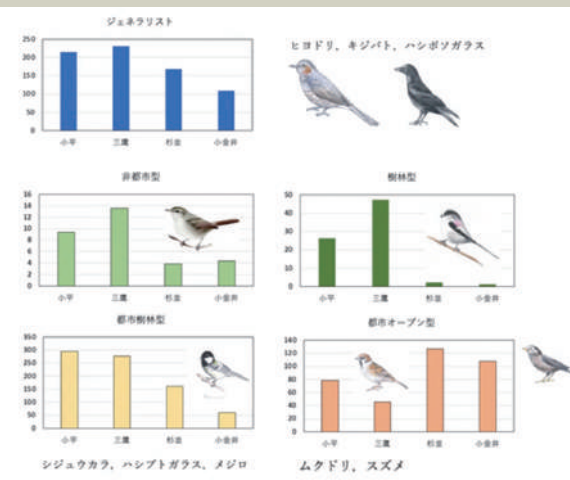


玉川上水の 小金井地区は鳥が少ない！

玉川上水の小金井地区は鳥の種類と数が少ないという調査論文が発表されました。以下はその抜粋です。

『本調査は 2021 年に玉川上水の樹林管理が異なる 4 カ所（小平、小金井、三鷹、杉並）で鳥類の種ごとの個体数の調査（7 回）と樹林調査（18 地点）を実施した。鳥類群集は上水沿いの樹林帯と周辺の樹林も豊富な三鷹と小平で豊富であった。緑地が両側を交通量の多い大型道路に挟まれた杉並では、鳥類の種類と個体数が少なかったが、オナガ、ハシブトガラス、ドバトは比較的多かった。サクラ以外の樹木を皆伐した小金井では、近くに広い小金井公園があるにもかかわらず、鳥類群集は最も貧弱であった。とくに森林性の鳥類が少なく、都市環境でも生息するムクドリ、スズメなどがやや多めに過ぎなかった。玉川上水での鳥類群集の季節変化は都心の皇居や赤坂御所などと共通しており、夏にヒヨドリや他の森林性鳥類は減少した。これらの結果は、玉川上水の鳥類群集が植生管理の影響を強く受ける可能性を示唆する。今後の玉川上水の植生管理においてはこのような生物多様性の視点を配慮することが重要であることを指摘した。』

・この論文は「山階鳥類学雑誌」に公表された（高槻成紀ほか 2023）。



2つの活動報告



① 7月22日(土)玉川上水自然観察会（講師：森林インストラクター大石征夫さん）猛暑の中、陣屋橋～貫井橋間を歩きました。つる植物の繁茂やアキノタムラソウの咲き方に緑陰の残る小平地区と日当たりの良すぎる小金井地区の違いを感じました。



② 7月23日(日)こだまのHPを見たという市内の中学1年生3名からインタビューを受けました。自分のまちの環境をテーマに研究を始めたところ「小金井と言えば桜だが、そのほかの植物のことはどうなのだろう？」と疑問を持ったそうです。若い人がどんなことを感じ、調べていくのかとても楽しみです。

玉川上水 *「こだまの会」は小金井玉川上水の自然を守る会の通称です。

こだま通信

発行：小金井玉川上水の自然を守る会 代表：橋本承子／田頭祐子
E-mail: kodama2107kodama@yahoo.co.jp
https://kodama201803.jimdo.com

2023年8月1日 No. 12

小金井地区では可憐な花や鳥や虫が減ってきている！



ニリンソウ



チゴユリ



ヤブガラシ



ノカンゾウ

緑陰の残る武蔵野地区（写真左上）・小平地区は日陰を好むニリンソウやチゴユリなど森林性植物が見られ鳥類や虫も種類が多いのですが、桜以外を伐採した小金井地区（右上）ではそれらの動植物が減り、日当たりを好むノカンゾウ等草原性植物が増え、同時にヤブガラシ・クズなどのつる植物が大繁茂。草花の種類が乏しくなり鳥や虫が減ってきています。

東京都は玉川上水の整備計画を改定 《生物多様性の保護、史跡・名勝と緑との調和》の実現を！



7月11日18時から「史跡玉川上水及び名勝小金井（桜）整備活用のための作業説明会」@公民館緑分館に参加しました。

ここでH21.8策定の「史跡玉川上水整備活用計画」を改定すると説明がありました。これは小金井市の整備活用計画の上部計画にあたります。この計画期間はH22～31年度で

したが、まだ取り組みの継続が必要として、概ね10年間延伸します。気候変動や急激な伐採の影響か、桜などの倒木も増えました。法面崩落への危機管理も、より強化する必要があります。

改定の前提条件の中に、『玉川上水は～生物多様性の保護の観点から、法面崩落の危険性が高い箇所などで伐採が必要な場合を除き、史跡・名勝と緑との調和を図る』とありました。今後は過度な伐採への見直しを期待します。説明会では、名勝小金井桜だけが守られるのではなく、桜の生育を阻害しない中低木との共生も、今後のひこばえの管理の中で検討して欲しいと要望しました。

植 物 観 察 ⑩



ノカンゾウ

『夏が来れば思い出す…』初夏の尾瀬は「ミズバショウ」が咲き、その後の草原は「ニッコウキスゲ」が咲いて黄色の絨毯を敷き詰めたようになりました。今はシカの食害でシカ侵入防止柵の中だけ咲いています。

玉川上水はニッコウキスゲに似た「ノカンゾウ」と花が八重の「ヤブカンゾウ」が咲きます。小金井地区は高木がほとんど皆伐されて日当たりが良くなったので今後はカンゾウ類が増えて沢山咲くようになると思います。沢山咲いてくれるのは嬉しいのですが単純に喜んでばかりはいられません。日当たりが良くなったので、日光を好むボタンクサギ、ヨウシュヤマゴボウなどの外来種が増えます。つる植物のクズやカナムグラがすごい勢いで繁茂して他の植物に覆いかぶさってしまいます。反対に日影を好む在来植物のホウチャクソウ、フタリシズカ、キツネノカミソリ、ニリンソウなどは消えてゆくこととなります。

樹木を伐採したことにより、下草の生育に影響が出て植物の種類が単純化して生物多様性の乏しい緑地になってしまいます。

< Oishi >

小金井市長との面談 第1弾 こだまの会が要望書提出

2023年2月10日9時、市庁舎会議室で白井市長と玉川上水の小金井地区について面談しました。

要望書、こだま通信、玉川上水みどりといきもの会議作成の冊子『玉川上水についてのアンケート、とくに小金井の桜について』をお渡しし、今までの経緯と私たちの要望を伝えました。

白井市長からは、桜が育ちにくいところであること、切株だけが並ぶ景色にショックを受けたこと、水道局には生物多様性を大事にして欲しいと伝えたこと、などのお話があり、私たちの要望を真摯に聞いていただきました。

この事業の推進委員であり計画を作った先生の「桜とそのほかの樹木の共存はあり得ない」との考えのもと、多くの市民の声を顧みることなくほとんどの樹木が伐採されてしまいました。しかし、時間をかけてより良い管理をすることで今後の共存は可能であり、法面を保護し史跡を守るにつながります。新市長の下で新しい管理につながるよう働きかけていきます。



小金井市長との面談 第2弾 生きもの会議から提言

2023年5月25日8時30分、市庁舎会議室で玉川上水いきもの会議の高槻先生と鈴木さんをご案内し、白井市長と神山副市長と生涯学習部長と課長と面談しました。

高槻先生と鈴木さんから、小金井の管理の在り方については法面崩落の懸念や台風による桜の倒木、鳥の種類や数の減少などの指摘がありました。また桜と緑の共生を望む市民の声なども説明し、そのためにも桜整備活用推進委員会のメンバーの見直しが必要と提言。

市長からの話の中で、桜推進派も高齢化や苗木の生育を含む山桜継承の困難さなどの問題を抱えていることや、この計画に反対の人たちは「桜並木は不要だと言っている」との誤解があることがわかりました。

